

はじめに

- 1 弘化2年の軍事編成
- 2 オランダ軍艦長崎入港と防備体制
- 3 反射炉築設と四郎島台場
- 4 上野戦争
- 5 佐賀藩保有の大砲・銃
- 6 大砲・銃の売却

結語

■佐賀藩の軍制改革

佐賀藩の軍制改革は組織・人事・武器等々に及ぶ大規模なものだった。概要を示すと以下の通り。

- ・軍制改革（主に前半の滑腔銃の時代について）
 - ・天保～安政の軍制改革はまず長崎警備を主眼とし、特に砲術に特化していた
 - ・弘化元年に火術方設置（蘭式採用）。洋式銃砲の研究が開始
 - ・弘化3年4月に御番方の配下に大筒両組創設（主に長崎番の役方）
 - ※御番方が大組人数を指示し難く、新組の設置を行った。大筒両組は火術組創設の下地
 - ・安政元年、火術方にて諸組弓足軽の鉄砲訓練が開始
 - ・安政三年、雷管銃製造にとりかかる
 - ・嘉永元年、諸組鉄砲足軽の火縄銃を燧石式六匁に更新とする
 - ・嘉永3年、火術組創設（砲術だけでなく小銃研究にもかなり力を入れる）、諸組鉄砲足軽を八匁へ
 - ・嘉永元年、小銃の自作をとりやめ輸入に切り替えた。
 - ・嘉永6年に火術両組を御側新組とし嘉永年間に集中的に改革。十五大組体制に変化は限定的
 - ・万延元年（1860）惣鉄砲
 - ・文久3年、十六大組へ
 - ・元治元年には火術組は島内栄之助らの主導により蘭式から英式に改組し、エンフィールド銃に統一
 - ・慶応元年、エンフィールド銃の諸組渡が開始、十三大組へ
 - ・慶応3年、侍・手明鎗の二男三男の火術方訓練が開始、エンフィールド銃自作コスト難のため断念、
 - さらにスペンサー銃の自作を開始しようとしていた（戊辰戦争のため凍結？）
 - ・明治二年、八大隊制
 - ・明治三年、仏式への改編を開始

